

わたしたちは、予防医学を通じて人々の「生涯健康」「健康寿命の延伸」をめざし、健康と福祉の向上に努めることにより、社会に貢献してまいります。

よぼう医学

THE NEWS OF HEALTH SERVICE

(公財)東京都予防医学協会
予防医学事業中央会東京都支部
発行人 北川照男・編集人 山内邦昭

発行所 〒162-8402
東京都新宿区市谷砂土原町1-2
保健会館 電話 03-3269-1131
http://www.yobouigaku-tokyo.or.jp

毎月15日発行

子どもたちの

健やかな成長願ひ

第60回 日本小児保健協会学術集会

医療、保健、福祉、教育の専門家が 小児保健の最新の話題を講演

急速な少子高齢化の進行、生活環境や食事をはじめとするライフスタイルの変化など、子どもたちを取り巻く環境が大きく様変わりし、小児の医療、保健、福祉、教育のあり方にも多くの課題が生じている。こうした中、9月26日、28日の3日間、東京・渋谷区の国立オリンピック記念青少年総合センターで「明るく・やさしく・たくましく」夢に向かって進む」をメインテーマに第60回日本小児保健協会学術集会(会頭・岡田知雄日本大学医学部教授)が開かれた。学術集会には約1400人が参加。子どもたちが本来持っている能力を十分に発揮できる環境づくりを目指して、多数のシンポジウムや講演、約300題の一般口演などが行われた。



などといった生育環境の変化が子どもの生活習慣病に深く関係している」と指摘。

満の子どもが増加している問題にも触れながら、子どもの肥満やメタボリックシンドロームと生活習慣病との関連性などについて解説した。

また、生活習慣病の成り立ちをめぐる新しい知見として、「胎児期から新生児期の低栄養環境が成人期の慢性疾患の起源になる」というDOHAD (Developmental Origins of Health and Disease) の概念を紹介し、そのメカニズムなどに関して自施設の研究成果や国内外の知見を基に

学術集会では、まず岡田知雄教授(写真)が「子どもの生活習慣病」をテーマに会頭講演を行った。

岡田教授は「遊び場の減少やICT(情報通信技術)の影響による睡眠不足、食生活の変化、妊娠出産環境の変容

満傾向の頻度の推移を示し、東京電力福島第一原子力発電所の事故以降、屋外活動が制限されている被災地で肥

食事や運動、睡眠状況や肥満傾向の頻度の推移を示し、東京電力福島第一原子力発電所の事故以降、屋外活動が制限されている被災地で肥



今月の主な紙面

- (1面) ●子どもたちの健やかな成長願ひ
第60回日本小児保健協会学術集会
●市民公開講座 学校保健の今、気になる話題
- (2・3面(見開き))
●連載 予防医学事業のこれまでとこれから 第14回
●話題 第251回ヘルスケア研修会
がん闘うからだの免疫
●連載 健康づくり・健康増進を支援するページ
健康相談ビフォー・アフター 第5回:保健師/管理栄養士/健康運動指導士からのアドバイス
- (4面) ●乳がん征圧を目指して一ピンクリボン in 東京2013
●タバコのない社会を目指そう!
第2回日本タバコフリー学会学術大会
●子宮頸がん検診 HPV検査検証事業に協力一本会
●「腰痛について」の勉強会を開催一本会

市民公開講座 学校保健の今、気になる話題

第60回日本小児保健協会学術集会の市民公開講座「学校保健の今、気になる話題」(座長・前田美穂日本医科大学教授、高橋昌里日本大学医学部教授)では、学校保健で注目されている4つの話題について、それぞれのエキスパート

が問題点を解説し、予防法をわかりやすく説明した。まず、慶應義塾大学医学部の松本守雄准教授が「児童生徒の脊柱側弯症」と題して、その病態や問題点、学校検診に義務づけられている側弯症検診の概要と早期発見の重要性、日常面での指導や治療の実際などを紹介した。

最後に、日本大学医学部の鮎沢衛准教授が「突然死の現状と対策」と題し、学校管理下での心臓系突然死の発生頻度と原因、管理指導上の注意点を述べ、学校でのAEDの使用などによって死亡例が減少していることを報告した。会場には大勢の市民や学校保健関係者が参加し、熱心に聞き入っていた。

また、「肥満とやせ」と題して講演した東京都立広尾病院小児科の原光彦部長は、小児の肥満とやせのチェック法、肥満とメタボリックシンドロームの問題点、指導のあり方、思春期やせ症の問題などを紹介。成人後を見据えた指導の重要性を説いた。

また、「肥満とやせ」と題して講演した東京都立広尾病院小児科の原光彦部長は、小児の肥満とやせのチェック法、肥満とメタボリックシンドロームの問題点、指導のあり方、思春期やせ症の問題などを紹介。成人後を見据えた指導の重要性を説いた。

説明した。その上で岡田教授は、「小児保健が直面している問題の背景要因は多様化、複雑化しており、治療に難渋することもある」とし、「学校保健や地域保健における教育や啓発など構造的な対応が重要だ。社会全体で子どもの生育環境の改善に取り組まなくてはならない」と訴えた。

また、「肥満とやせ」と題して講演した東京都立広尾病院小児科の原光彦部長は、小児の肥満とやせのチェック法、肥満とメタボリックシンドロームの問題点、指導のあり方、思春期やせ症の問題などを紹介。成人後を見据えた指導の重要性を説いた。

また、「肥満とやせ」と題して講演した東京都立広尾病院小児科の原光彦部長は、小児の肥満とやせのチェック法、肥満とメタボリックシンドロームの問題点、指導のあり方、思春期やせ症の問題などを紹介。成人後を見据えた指導の重要性を説いた。

この学術集会では、シンポジウム「東日本大震災の復興支援における小児保健の諸問題と解決」、「発達障害」これからの対応、ワークショップ「子どもを元気にする運動・スポーツのあり方について」、特別講演「子どもとICT」、教育講演「医療現場から見た児童虐待」、「小児がん患者QOLについて」などが行われた。

この学術集会では、シンポジウム「東日本大震災の復興支援における小児保健の諸問題と解決」、「発達障害」これからの対応、ワークショップ「子どもを元気にする運動・スポーツのあり方について」、特別講演「子どもとICT」、教育講演「医療現場から見た児童虐待」、「小児がん患者QOLについて」などが行われた。

続いて基調講演を行った恩賜財団母子愛育会日本子ども家庭総合研究所の衛藤隆所長は、「わが国における小児保健80年のあゆみ」と題して、設立以来80年、時代の要請に応じて研究と発表を行ってきた日本小児保健協会の活動を報告。「昨年、公益財団法人に移行した同協会が、少子高齢化や生活習慣病の変化といった今日的な課題への取り組みを続け、成果をあげていくことを期待する」と語った。

また、各国の少子化の実情を紹介し、わが国の特徴として、親子関係が強固である反面、横の関係である男女のパートナシップ形成が比較的に弱いといった点を指摘した。佐藤氏は、「少子化は歴史的、文化的背景を持つ根深い問題であり政策による少子化脱却は容易ではない。従来型の親子関係への支援だけでなく、カップルへの支援も考えていくことが必要ではないか」と説いた。

個人情報の取扱いについて

日頃より、東京都予防医学協会の機関紙「よぼう医学」をご愛読くださりありがとうございます。本会では、現在「よぼう医学」を送付させていただいている皆様について、送付に必要な情報(名前、住所、所属、役職など)を送付名簿として保持しております。これらの個人情報の収集、保存、利用につきましては、本会の個人情報保護方針に基づき、厳重な管理のもとに運用しております。その上で今後も継続して送らせていただきたいと思います。送付名簿から削除を希望される場合には、お手数ですが、広報室(電話 03-3269-1131)までご連絡ください。

健康管理相談をお引き受けします

当センターの会員が事業所、学校、各種団体の健康管理をアドバイスいたします。

担当: 江崎良晴 三輪祐一

お問い合わせ・ご相談は事務局まで(予約制)

健康管理コンサルタントセンター
事務局 東京都新宿区市谷砂土原町1-2
(公財)東京都予防医学協会
電話 03-3269-1141

送付先の変更・中止について

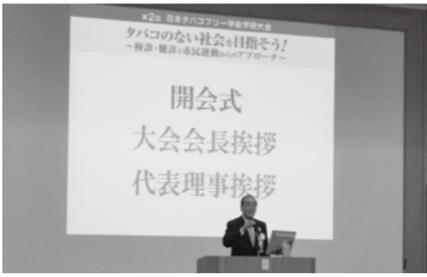
送付先の住所変更・購読中止の場合には、変更内容を明記の上、本会広報室までお知らせください。

Eメール
thsa-koho@msj.biglobe.ne.jp
FAX 03-3269-7562

お電話(03-3269-1131)でも承っております。

タバコのない社会を目指そう!

第2回 日本タバコフリー学会学術大会



第2回日本タバコフリー学会学術大会(大会長・金子昌弘本会吸器科部長)が9月15日、16日の両日、東京・千代田区で開催された(写真)。

大会長講演「禁煙と検診の結合で肺がん撲滅を」で金子部長は、「肺がん死亡を減らすには、喫煙率の低下と検診受診率の向上が重要な柱となる。検診で異常がなくても、喫煙者には積極的に禁煙をすすめる、禁煙を達成した禁煙外来患者にも、最低10年間はCTと喀痰細胞診での肺がん検診受診を強力にすすめて欲しい」として、禁煙と検診の結合の重要性を強調した。

特別講演では禁煙席ネットの宮本順伯医師が国内外の公共施設の禁煙状況を示し、Burning Brain Society代表の

乳がん月間の10月。乳がんの早期発見、早期治療の重要性を伝えるピンクリボンキャンペーンが全国各地で開催され、さまざまなイベントが行われた。このうち、東京都では10月1日、世田谷区の三子玉川ライズを会場に「ピンクリボン in 東京2013」(主催・東京都福祉保健局)が開催された。ピンクリボン活動に取り組み企業や団体が啓発ブースを出展した他、歌などのステージパフォーマンスやタレントによるトークショーなどが行われ、多くの市民が来場した。本会も協力団体としてマンモグラフィ検診車の見学コーナーを担当した。



写真上: 本会が協力したマンモグラフィ検診車の見学
写真下: 乳がんのセルフチェックを体験する参加者

わが国の乳がん死亡率は、0.3ポイントとわずかながら増加傾向にあったが、2012年の人口動態統計で、その理由として、マンモグラフィによる乳がん検診の普及や治療法の進歩などが考えられることから、より大きな効果を得るため、乳がん検診受診率の一層の向上が求められている。

子宮頸がん検診のあり方も大きく変わろうとしている。海外では既に、従来の細胞診に、新たにHPV感染の有無を調べるHPV検査を加えた子宮頸がん検診(HPV併用検診)を実施している国も多い。

子宮頸がんの主な原因がヒトパピローマウイルス(HPV)であることが解明され、子宮がん検診のあり方も大きく変わろうとしている。

隔を現行の2年から3〜5年に延ばすことも可能とされており、検診による受診者の精神的負担をはじめとする不利益の軽減や検診費用の節約なども、その効果としてあげられている。

本事業の実施期間は、10月16日から来年2月28日まで。受診対象者は、八王子市在住の30歳、35歳、40歳の子宮頸がん無料クーポン券該当者でHPV検査を希望する人、となっている。

本会の木口一成検査研究センター長は、「検診事業に協力できることは大変名誉なことであるが、検診方法の改良だけでは予防効果を十分に発揮することはできない。受診率のさらなる向上が、同時に求められる」と語る。

12月12日(木) 15〜17時
東京新宿区ブランドヒル市ヶ谷
第240回学校保健セミナー
成長曲線から見えてくる小児疾患

乳がん征圧を目指して

ピンクリボン in 東京2013

乳がん死亡率に減少の兆し

受診率のさらなる向上が要

わが国の乳がん死亡率は、0.3ポイントとわずかながら増加傾向にあったが、2012年の人口動態統計で、その理由として、マンモグラフィによる乳がん検診の普及や治療法の進歩などが考えられることから、より大きな効果を得るため、乳がん検診受診率の一層の向上が求められている。

検査の必要性を理解していたが、40歳になったら2年に1度、乳がん検診を受けることが当たり前になる社会になってもらいたい」と訴えた。

本会では健診などの医師の面談時に、症状に応じた対策を記載した「健康メモ」を受診者に配布し、健康づくりに役立ててもらっている。

本会では、今後も検討を続ける。来年度に向けて腰痛や膝痛の新しい健康メモを作成する予定である。

この間、ピンクリボン運動に取り組み区市町村や民間企業、関係団体が徐々に増えてきて、運動の着実な広がりを感している」と述べた。

その一方、都民の乳がん検診受診率が依然として30%台と低く、目標の50%に達していないとして、「もっと多くの方に

病院勤務者筋・骨格系疾患研究センターの松平浩センター長を講師に招き、10月5日に「腰痛について」の勉強会を行った(写真)。

第284回関東産業健康管理研究会が11月28日(木)18時15分から20時まで、千代田区の「大手町サンケイプラザ」で開かれる。

「腰痛について」の勉強会を開催

本会



お知らせ

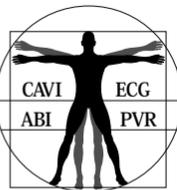
時間栄養学による心身の活性化
11月28日(木) 18時15分〜20時
東京千代田区大手町サンケイプラザ

第284回関東産業健康管理研究会が11月28日(木)18時15分から20時まで、千代田区の「大手町サンケイプラザ」で開かれる。

血圧脈波検査装置

VaSera

VS-3000シリーズ
医療機器認証番号: 224ADBZX00086000



血管機能検査の新時代



〒113-8483 東京都文京区本郷3-39-4 TEL (03) 3815-2121 (代) <http://www.fukuda.co.jp/>
お客様窓口… ☎ (03) 5802-6600 / 受付時間: 月〜金曜日(祝祭日、休日を除く) 9:00〜18:00
●医療機器専門メーカー

CAVI Cardio Ankle Vascular Index (心臓足首血管指数)

● 動脈の硬さの評価
CAVIは大動脈を含む「心臓から足首」までの動脈硬化度を反映する指標で、動脈硬化が進行するほど高い値となります。また、測定時の血圧に依存しない、血管固有の硬さを評価します。

ABI Ankle Brachial Pressure Index (下肢動脈の狭窄、閉塞)

● 末梢動脈疾患(PAD)の鑑別診断・重症度判定
ABIは、下肢動脈の狭窄・閉塞を評価する指標です。PADは、心血管疾患、脳血管疾患など、他臓器障害との合併が多く見られることから、早期発見が重要とされています。

NEW

